

ダニエル書 - 第百九十五号

日曜法への道：トランプ氏の役割とダニエル書11章における預言の展開

Jeff Pippenger

2024-04-25

四十節の隠された歴史には、1989年の「終わりの時」から、2020年に第七の大統領であるバイデンが大統領職を奪取した時までの、六人の大統領の系譜が含まれている。2020年は隠された歴史の始まりを示しており、その時点から「アレクサンドロス大王」に至るまでのことを指す。これは、間もなく到来する日曜法の時に、聖書の預言における第七の王国が樹立されることを表している。その十人の王たちは、直ちに自分たちの第七の王国を第八の王国に与えることに同意する。その第八の王国は七つのうちに属する、すなわち教皇権である。その隠された歴史は第七の大統領から始まり、第七の王国で終わる。

歴史が、ギリシャを奮い立たせる富める王を表すセルクセスからアレクサンドロス大王に至るまでの間に八人のペルシア王がいたことを明らかにしていることを踏まえると、二節の終わりから三節の間にある隠された歴史が、八という数によって獣の像の試練の時を表していることがわかる。アメリカ合衆国における獣の像は、日曜法が施行されるときに完全に確立され、その時点で第七の王国が現れ、続いて第八の王国が到来する。八人のペルシア王はアレクサンドロス大王で終わるゆえ、八という数は、日曜法で締めくくられる獣の像の試練の時を印づける。

第10節から第15節は、獣の像の試練の時間が、マカバイの歴史によって表される三つの道標のうち第三であり、その第三の道標は紀元前161年に始まり紀元前158年に終わる期間であったことを示している。その期間は、第一の道標である紀元前167年に続くものであり、これは「抗議する」を意味する名をもつ町モデインにおけるマカバイの反乱の始まりを示していた。紀元前164年はそのモデインでの抗議に続き、第二神殿の二度目の奉献を示した。紀元前164年は、1989年のレーガン以来の八番目にして七に属する者であるドナルド・トランプの二度目の就任を指し示す。彼の2025年1月20日の就任は紀元前164年によって表され、そして再奉献の式は、八が七に属することへの二つの言及を含む悪魔的な奇跡を生み出した。

ゆえに、八人のペルシアの王たちは、紀元前161年から紀元前158年に至るユダヤ人とローマの同盟の歴史を表しており、そうすることで、2025年のトランプ就任に続く獣の像の試みの時に対する第二の証言を与える。第2節は2020年の盗まれた選挙へと進み、そこで終わるが、八人のペルシアの王の歴史的証言が適用されるのはトランプの2度目の就任の後である。八人のペルシアの王を第2節と第3節の間の歴史に当てはめると、バイデンの就任からトランプの2度目の就任までにはなお隠された期間が残る。

その隠された歴史は『ヨハネの黙示録』第十一章に示されており、そこでは無神論の獣が2020年に二人の証人を殺す。その後、象徴的な三日半を経て、ミカエルが降臨して二人の証人を復活させる。「復活した」トランプは2022年11月15日に三度目の大統領選挙運動を開始し、復活した「荒野の声」は2023年7月末に十四万四千人を召し集め始めた。

ダニエル書11章10節、11節、12節は、2014年に始まったウクライナ戦争を特定しており、この戦争はロシアの勝利で終わり、その後、1989年のソ連崩壊に象徴されるように、現在のロシアの連合体が崩壊する。

十三節から十五節は、三つの預言の系統を明らかにしている。ツロの淫婦が隠れていたところから現れるときに始まる教皇権の回復の系統は十四節によって予型されており、その歴史的成就是紀元前200年であり、異教ローマが「あなたの民を略奪する者」として預言史に登場し、高ぶるが倒れる時である。

三つの節において、背教的共和主義の預言的系譜はアンティオコス三世の歴史によって表されており、彼は、八番目でありながら七人の一人でもある大統領としてのトランプの役割を象徴している。また、これらの節は、マカバイ家の歴史によって表される背教的プロテスタントの預言的系譜も示している。

ミラー派のフィラデルフィア運動として始まり、十四万四千人のフィラデルフィア運動として終わる、真のプロテスタントの角の預言的系譜は、四十節の隠された歴史にも重ね合わせられるべきである。黙示録第十章の「七つの雷」は、ミラー派のフィラデルフィア運動と十四万四千人の双方の象徴である。預言の封印とその開封はキリストによって行われ、彼がそれをなさるとき、彼はユダ族の獅子としてご自身を示される。第十章において、シスター・ホワイトが「イエス・キリストにほかならないお方」と述べているその御使いは、「獅子がほえる時のように大声で叫び、彼が叫ぶと、七つの雷がそれぞれ声を出した」。

ユダ族の獅子であるキリストは、西暦100年ごろに「七つの雷」を預言史に据え、直ちにそれを封印した。というのも、「七つの雷がその声を発したとき」、ヨハネは「書き記そうとした」が、彼は「天から『七つの雷が語ったことを封じ、書き記すな』という声を聞いた」からである。

第40節の隠された歴史は、いまユダ族の獅子によって封印が解かれており、その歴史において、真のプロテスタントの角の系譜は「七つの雷」によって表されている。2023年7月に荒野で叫ぶ者の声が上がったとき、ユダ族の獅子は、「七つの雷」が何を表しているのかについての別の啓示の封印を解いた。

「七つの雷」は、十四万四千人の運動が2020年7月18日に街頭で打ち倒されてから、まもなく到来する日曜法に至るまでの歴史を表している。

「七つの雷」の線は、その歴史の中で起こる「出来事」を特定している。

最初の失望に続いて「真夜中の叫び」のメッセージがあり、その後に日曜法が続く。ホワイト姉妹が「七つの雷」を第一と第二の天使の歴史として、あるいは将来の出来事として示したとき、いずれの場合にも、それらが「出来事」を表していることを示した。

真夜中の叫びのメッセージは「出来事」ではない何かのように聞こえるかもしれないが、ミラー派の歴史において、1844年8月12日から17日にかけてのエクセターのキャンプ集会は、その出来事に結び付いたいくつもの関連する詳細を伴う「出来事」であった。とはいえ、そのキャンプ集会における真夜中の叫びのメッセージの到来は、マタイ25章の十人の乙女のたとえの成就でもあった。エクセターのキャンプ集会という「出来事」は「七

つの雷」の成就であったが、十人の乙女のたとえはそれらの出来事を扱っているのではなく、乙女たちの「経験」を扱っている。

「マタイ25章の十人の乙女のたとえは、アドベンチストの人々の経験も示している。」『大いなる論争』393。

ちょうど七つの雷が第一の天使と第三の天使の運動の並行する歴史を指し示しているように、十人の乙女のたとえもまた、その二つの並行する歴史を指し示している。

「私はしばしば、五人は賢く、五人は愚かであった十人の乙女のたとえを引き合いに出されます。このたとえは、この時代に対して特別な適用があるため、文字どおりにすでに成就してきており、これからも成就します。また、第三天使のメッセージと同様に、すでに成就しており、時の終わりまで現在の真理であり続けます。」 Review and Herald, 1890年8月19日

七つの雷の象徴は、並行する歴史における「出来事」を表し、十人の乙女は、その二つの並行した歴史における賢い乙女と愚かな乙女の「経験」を表している。ミラー派の経験は、1856年まではフィラデルフィアの経験であり、十四万四千人の運動の経験は、2023年7月の少し後までラオデキアの経験であった。両方の歴史において、真夜中の叫びのメッセージの到来のときに、賢い乙女と愚かな乙女が明らかになる。なぜなら、そのときにこそ、準備の油を持っていたのが誰であったかがわかるからである。

「愚かな乙女たちに象徴される教会の状態は、またラオデキアの状態とも呼ばれている。」レビュー・アンド・ヘラルド、1890年8月19日。

2023年7月末に降臨した大天使ミカエルの手にあるメッセージを食べることを拒む者はラオデキアの状態にとどまり、小さな巻物を取り、それを食べる者はフィラデルフィアの状態へと移行する。ラオデキアの状態は、キリストが外におられながらなお中に入ることを求めておられる人々、または個人を表し、フィラデルフィアの状態は神性と人性の結合として表される。七つの雷は、第40節の隠された歴史に置かれている真のプロテスタントの角の系列における「出来事」を明らかにしており、それは2020年7月18日に始まり、日曜法で終わる。

十人の乙女のたとえは、まさに同じ期間に十四万四千の中に数えられるよう召された者たちの「経験」を示している。2020年7月18日から日曜法に至るまでの十四万四千の歴史を特定する「出来事」と、その歴史における二つの階級の「経験」には、これら二つの並行する歴史において過去に割り当てられ、今も割り当てられている働きの特定が伴っている。その働きは黙示録十四章の天使によって表されており、ミラー派の働きは第一の天使と第二の天使によって表され、十四万四千の働きは第三の天使によって表されている。

私は、経験を得るための貴重な機会が与えられてきました。私は第一、第二、第三の天使のメッセージにおいて経験をしてきました。天使たちは天の中空を飛び、世界に警告のメッセージを宣言し、この地球の歴史の終わりの日々生きる人々に直接関係するものとして表されています。これらの天使の声を聞く者はいません。というのも、彼らは、天の世界と調和して働く神の民を表す象徴だからです。神の御霊に照らされ

、真理によって聖められた男女が、三つのメッセージをその順序に従って宣べ伝えるのです。『ライフ・スケッチ』429頁。

封印の時の初めである2001年9月11日に終わりの時の神の民に与えられた使命は、封印の時の終わり、すなわち2023年7月にミカエルが降臨したときに、再び終わりの時の神の民に与えられる。

ヨハネは見た。「大いなる権威を持つもう一人の御使いが天から下って来て、その栄光によって全地が照らされた。」黙示録18章1節。その働きは、世界に警告のメッセージを宣べ伝える神の民の声である。『1888年資料』926。

七つの雷が表す「出来事」と十人の乙女が表す「経験」と同様に、三人の天使の働きは二つの並行する歴史を表している。

神は、黙示録14章のメッセージに預言の系列の中での位置をお与えになり、その働きはこの地上の歴史が閉じるまでやむことはない。第一と第二の天使のメッセージは今の時代においても依然として真理であり、これに続くものと並行して進むべきである。第三の天使は大声でその警告を告げる。「これらのことの後に」とヨハネは言った。「私は天から下ってくる、偉大な力を持つ別の天使を見た。地はその栄光によって照らされた。」この輝きにおいて、三つのメッセージすべての光が結び合わされている。『1888年の資料』804頁。

ダニエル書11章13節から15節では、背教したプロテスタント主義（マカバイ家）、背教した共和主義（アンティオコス三世）、そしてツロの淫婦（あなたの民を略奪する者たち）という系統の預言的な働きが示されている。同じ歴史の中で、十四万四千人の真のプロテスタントの角の預言的系統は、彼らの働き、「経験」、そして神の終末の民の間で起こる「出来事」を明らかにしている。真のプロテスタントの角の系統は「七つの雷」として表されており、それは黙示録の中で封じられていると明記されている唯一の預言である。猶予期間が終わる直前に、「七つの雷」の預言を封じられた方であるユダ族の獅子から、この書の預言の封印を解けとの命令が下る。

十四万四千人の封印の期間の終わりにおける七つの雷の封印の解除は、封印の期間の初めにおける七つの雷の封印の解除によって予表されていたが、それは終わりの日に関するダニエル書のその箇所、すなわち四十節の隠された歴史に（行に行を重ねて）適用されるべきである。その封印の解除が第七の封印の開封によって表されているように完全に成就すると、神はペンテコステのときに弟子たちにされたように、十四万四千人の上に聖霊の火を注がれる。ペンテコステは、間もなく来る日曜法と一致する。

私は、あの時にもまさる力をもって五旬節の日の出来事が繰り返される時を、切なる思いで待ち望んでいる。ヨハネはこう言う。「私は、大いなる力を帯びた別の御使いが天から下ってくるのを見た。地はその栄光によって照らされた。」その時には、五旬節のときと同じように、人々はそれぞれ自分の言葉で自分たちに語られる真理を聞くことになる。

主は、まことにご自身に仕えたいと願うすべての魂に新しいいのちを吹き込み、祭壇から取った火のついた炭でその唇に触れて、主の賛美を雄弁に語る者とすることがお

できになる。幾千の声が、神の御言葉の驚くべき真理を語り出す力に満たされるであろう。ども舌は解き放たれ、臆病な者は強められて、真理のために勇敢に証しする者とされるであろう。どうか主が、ご自分の民を助けて、魂の宮からあらゆる汚れを清めさせ、また、後の雨が注がれるときそれにあずかることができるほど、主との親しい交わりを保たせてくださいますように。Review and Herald, 1886年7月20日

封印の時期の始まりは、封印の時期の終わりを示している。初めには後の雨はある程度の分量で注がれ、終わりには限りなく注がれる。2001年9月11日に降りてきた天使は、2023年7月末に降りてきた天使と同じである。ペンテコステの歴史はキリストの復活から始まり、ペンテコステの完全な成就の終わりは十四万四千人の復活にある。

キリストが弟子たちに聖霊を吹きかけ、彼らにご自身の平安をお授けになったその御業は、ペンテコステの日に与えられる豊かな降り注ぎに先立つ、ほんの数滴のようなものであった。『預言の霊』第3巻、243頁

キリストは復活の後、御父のもとへ昇られた直後に、弟子たちに息を吹きかけられた。御父にお会いしてから降りて来られたとき、キリストは弟子たちに現れ、「ペンテコステの豊かな雨」に先立つ「わずかな滴」を彼らに吹きかけられた。そのわずかな滴は封印の時の始まりを、豊かな雨はその終わりを表している。封印の時の始まりは終わりにおいて繰り返され、ペンテコステ期の初めにキリストが弟子たちに息を吹きかけられたように、その期の終わりにも終わりの時代の民に息を吹きかけられた。

干からびた骨は、死者の中からの復活のように行動を起こすため、神の聖霊によって息を吹きかけられる必要がある。聖書訓練学校、1903年12月1日。

二人の証人の死には、ナッシュビルと2020年7月18日に関する偽りのメッセージを唱えた者たちはラオデキア人としてそうした、という事実が含まれている。干からびた骨の復活は、死の状態であるラオデキアから、いのちであるフィラデルフィアの状態への移行を表している。その復活と移行をもたらす息は、預言的なメッセージである。

律法主義的な宗教しか持たない氷のように冷たい心が、彼らのために備えられているより良いもの-キリストとその義-を見るようになるために、私たちは神からどれほどの力を受けなければならないのだろうか。干からびた骨にいのちを与えるには、いのちを吹き込むメッセージが必要であった。『Manuscript Releases』第12巻、205ページ。

キリストの復活後の期間は二つの時期に分けられ、最初は四十日で、その後に彼は昇天し、続いてペンテコステに先立つ十日があった。四十という数は荒野の象徴であり、三日半や千二百六十年または日も同様である。

2023年7月にミカエルが降臨したとき、路上での三日半の死は終わり、キリストは十四万四千人の間にご自身の神性を人性と結び合わせる働きを始められた。その働きは、ペンテコステに先立つ十日間によって象徴されており、そこで罪は取り除かれ、兄弟たちの間に一致が確立された。十という数は試練の過程を表しており、その試練の過程は、日曜法を象徴するペンテコステで終わった。

八人のペルシャの王とユダヤ人とローマとの同盟の歴史が獣の像の試練の過程を表している四十節のまさに同じ歴史において、五旬節に至る十日間にはおとめたちの試練の過程が描かれている。プロテスタントと共和主義の背教の角はその歴史の中で結び合わさって獣の像を形成する一方、真のプロテスタントの角は自らの人間性をキリストの神性と結び合わせ、このようにして礼拝者を二つの種類に分ける過程の中でキリストの像を形づくる。

「七つの雷鳴」として表されている歴史的出来事は、ダニエル書11章13～15節に象徴される歴史の中で封印が解かれ、また、それらは、間もなく到来する日曜法において安息日遵守者の恩恵期間が閉じられるところで結末を迎える、40節の隠された歴史と一致している。

また、これらのたとえば、審判の後には猶予期間がないことを教えている。福音の働きが完結すると、直ちに善と悪が分けられ、両者の運命は永遠に定められる。『キリストの実物教訓』、123。

賢い者と愚かな者、ラオデキア人とフィラデルフィア人、あるいは麦と毒麦の選り分けは、天使たちによって行われる。

刈り入れの時まで、毒麦も小麦も共に育つままにしておきなさい。そのとき、選り分ける働きをするのは天使たちである。『セレクトッド・メッセージズ』第2巻、69ページ。

恩恵期間が閉じる直前に封印が解かれるそのメッセージは、天使に象徴される神の民の働きを示している。これらの記事に含まれているメッセージは、いま世界中で六十以上の言語（諸言語）で発表されている。これはまさに恩恵期間が閉じる直前に成し遂げられており、このメッセージを提示することは、終わりの時代の神の民の務めである。そのメッセージは、七つの雷として象徴される出来事を明らかにし、このメッセージを理解し提示するという働きは、賢い乙女たちの経験をもたらす。

次の記事でこの研究を続けます。

夜の幻の中で、非常に印象深い光景が私の前を過ぎていった。私は、いくつもの美しい邸宅の間に巨大な火の玉が落ち、たちまちそれらを破壊したのを見た。私は、誰かがこう言うのを聞いた。「私たちは、神の裁きが地上に臨むことは知っていた。しかし、それがこんなにも早く来るとは知らなかった。」ほかの者たちは苦悶の声で言った。「あなたがたは知っていたのに！それなら、なぜ私たちに告げなかったのですか？私たちは知らなかったのに。」四方から、同じような非難の言葉が語られるのを聞いた。

大きな苦しみの中で目を覚ました。再び眠りにつくと、大きな集まりの中にいるように思われた。権威ある一人が一同に向かって語っており、その前には世界地図が広げられていた。彼は、その地図は耕すべき神のぶどう園を表しているのだと言った。天からの光が誰かに注がれると、その者はその光を他の人々に映し出すことになっていた。多くの場所で灯がともされ、その灯からさらに別の灯がともされることになっていた。

その言葉は繰り返された。「あなたがたは地の塩である。だが、もし塩が味を失ったら、何によって塩味がつけられようか。もはや何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。丘の上に建てられた町は隠れることができない。人はともしびをともし、それを柵の下に置かず、燭台の上に置く。そうすれば家の中にいるすべての人を照らす。あなたがたの光をこのように人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためである。」マタイ 5章13-16節。

私は、町や村から、また地上の高い所や低い所から、輝く光の柱が立っているのを見た。神の御言葉は守られ、その結果、すべての町や村に神を記念するしるしがあった。神の真理は全世界に宣べ伝えられた。

するとこの地図は取り外され、代わりに別の地図が掛けられた。その地図では、光が輝いているのはごくわずかな場所だけだった。世界の残りは暗闇に覆われ、ところどころにかすかな光があるばかりだった。私たちの指導者は言った。「この暗闇は、人々が自分の思いのままの道を歩んだ結果だ。彼らは先天的なものや後天的に培われた悪への傾向を温存してきた。彼らは、問いただし、あら探しをし、非難することを、人生の第一の務めとしてきた。彼らの心は神の御前に正しくない。彼らは自分の光を升の下に隠してしまったのだ。」

「もしキリストの兵士一人ひとりが自らの務めを果たし、シオンの城壁の見張り人一人ひとりが確かな音でラッパを吹き鳴らしていたなら、世界はこれまでにすでに警告のメッセージを聞いていたであろう。しかし、働きは何年も遅れている。人々が眠っている間に、サタンはわれわれに先んじた。」『証言』第9巻、28、29。